

まなびの広場
稲進会
教室通信

彩色いろいろ

『常識』の殻を破る

右の新聞記事は、井村屋『あずきパー』発売に至る経緯について書かれたものです。当時、井村屋社長であった井村二郎氏（故人）が何を考え行動していたかがわかります。井村氏は、「人のしないことをする。ないものを作る。これが商売の基本だ」といい続けたそうです。

人のしないこと、ないものとは、『常識』にとらわれないことに通じます。

常識にとらわれない人ということで、もう一人の人物が浮かんできました。一ヶ月ほど前にTBSで放映されたドラマ『LEADERS—リーダーズ』の主人公、トヨタ自動車の実質創業者、豊田喜一郎氏です。喜一郎氏の夢は、まさに当時の常識にとらわれないものでした。工業技術において、ヨーロッパ、アメリカから格段に遅れをとっていた日本が、国内技術のみで車を生産する、そして海外に普及させるという夢。当時の常識では誰もが不可能だと考えていました。しかし、喜一郎氏はあきらめない。様々な困難（時代による不運、経営者として考えられないほどのプレッシャーの中に喜一郎氏がいた事がドラマの中で描かれています）の中でも、夢を見続けトヨタ自動車の土台を築き上げました。

上記の二人のような大会社の社長、歴史的偉人だから常識の殻を破れたというわけではありません。どんな人にも常識の殻を破る機会が常に訪れているのだと思います。自分で出来ないと思っていたことが、出来るようになることを成長と言います。自分でできないと思っていることとは、まさに自分が作った常識。勝手に頭の中に浮かべたものです。「成長する＝常識の殻を破る」という図式が成立すると言えます。

レゴのレッスン中に、「そんなことは出来ないよ」と言う言葉を耳にします。また進路指導をしていると、「あの学校には自分は合格出来ない」と思い込んでいる様子に出会います。どちらも自分で作り上げた常識の殻を破ることができないと思い込んでいます。逆に、どんな課題、テーマであっても「とりあえずやってみよう」と取り組む生徒もいます。「この先頑張れば成績を上げられる」と信じ日々の学習を行っている生徒もいます。彼らには常識の殻は破れるもの、仮に一度では無理だとしても、何度となく方法を考え行動をすればそのうち出来るようになる、という感覚が身についています。

殻は破れないと思い込んでいる生徒には、「自分の力で殻を破った」という経験が必要です。注意すべきは、「大人のおかげで」という感覚の中では意味が無いということです。これでは殻を破れたという実感を持ってません。自分の意志で、自分の力で破ることに意味があります。大人は気づかれない程度に見守り、時にそっと背中を支え、時にそっと押してあげるのが役目であると思っています。

殻は破れないと思い込んでいる生徒には、「自分の力で殻を破った」という経験が必要です。注意すべきは、「大人のおかげで」という感覚の中では意味が無いということです。これでは殻を破れたという実感を持ってません。自分の意志で、自分の力で破ることに意味があります。大人は気づかれない程度に見守り、時にそっと背中を支え、時にそっと押してあげるのが役目であると思っています。



(中日新聞 2014年4月6日)

教室の風景

「待つ」ということの大切さ

「春」です。ようやく新芽が顔を出し花開く季節になりました。

寒い冬の間、かたく蕾を閉ざしていた桜の花が一気に開花するように、みんなの中でじっと“その時”を待っていた力が突然芽を出す瞬間に出会うことがあります。

レッスン最後の発表の時にとても驚いたことを紹介します。それまでの発表といえば、私の問いかけに対してひとつずつ答えていくような形式でした。しかし、その日の彼は違っていました。きちんと順序だてて自分から発表することができ、私が口をはさむ隙がないぐらい「ココが大変で……なんでかというところ…」などなど、話し続けてくれました。最後は「〇〇したところが気に入っているので、これはずっととっておいて欲しいと思いました」と締めくくることができたんです。「すごく分かりやすかったよ!!」と私が感想を言うと、とても満足そうな笑顔。これがいわゆる“どや顔”ですよ。

また、自動販売機を作っていた新年中の男の子とのレッスンでの出来事。5種類のジュース、つまり5色のブロックを用意している時、その子がいつもリンゴジュースを飲んでいたので思い出した私は、「〇〇くんの好きなリンゴジュース(赤)は？」と聞いたのです。すると「それはお家にあるからいいの」と言って他の味(色)ばかりを選んでいました。色々考えてるんだなあ、としみじみと感心させられました。「小さな子でも、大人と同じぐらいたくさんのことを考えている」と書いてある本を読んだことがあります。ただ、幼いがゆえにそれを言葉にすることが出来ないことがあります。そう考えると、どんな内容であったとしても思ったことを言葉に出来るようになったというのは成長の証と言えます。

他にもいっぱい有り過ぎて、すべてを紹介できないのが残念です。子どもたちはそれぞれのペースで確実に成長しています。「教える=できる」では決してなく、その子なりの“その時”が来るまで見守りながら待つことの大切さを強く感じながら今年度のレッスンもスタートしました(^-^)/

インストラクター 清水 倫子

今月の作品介绍



“ワニバス”
ワニの顔したバスです。子どもがたくさん乗っている大人気のバスです。



“橋”
船(海賊船!?)が通るときには、橋が上がります。

ダクタクラス・ジュニアクラス 日曜クラス開講しています!

※時間などの詳細に関しては、お気軽にお問い合わせください。